

# 浦幌町立博物館だより

令和2(2020)年8月号

編集・発行：浦幌町立博物館 ☎089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16-1 / ☎015-576-2009 / ✉museum@urahoro.jp

## 「MLA連携」を深めるために

浦幌町立博物館と図書館は、1999年12月の開館以来、同じ建物に同居する「複合施設」の形で運営を続けてきました。

博物館、図書館それに行政文書や古文書を収集する文書館は、どれも「資料を集めて保存する」機関です。こうした、館種は異なっても「資料の収集・保存」という共通の目的を持つ機関が、お互いに協力しあって、効率よく保存や活用をはかっていこうという協力のことを「MLA連携」といいます。



浦幌町立博物館(左)と図書館。開館時間を10:00-18:00に統一し、職員の勤務時間も揃えます。

### 図書館・博物館の複合施設

「MLA」とは、博物館(M:ミュージアム)と図書館(L:ライブラリ)それに文書館(A:アーカイブズ)の頭文字です。それぞれの機関で、得意とする資料の種類が異なります。博物館はモノを、図書館は出版物を、そして文書館は出版物以外の紙資料(文書、メモ、記録など)を集めます。

お互いの機関は、それぞれが対象とする資料の特性に応じて、収集や保存活用のための技術を発達させてきま

た。たとえば、図書館の本は、いまではインターネット上で誰もが検索することができます。自宅にいながら、どの図書館にどの本が所蔵されているのかを知ることができるのです。

博物館にはそうしたシステムが発達してきませんでした。そこで、図書館の資料検索システムを、博物館にも応用する動きが広がっています。

いっぽう、地域の歴史や民俗を記録した、出版物ではない資料(郷土資料)の収集は、実は博物館の方が得意な

面もあります。浦幌には文書館はありませんが、MとLが同じ建物に同居している「複合施設」なのは、連携をとるうえで好都合なことです。

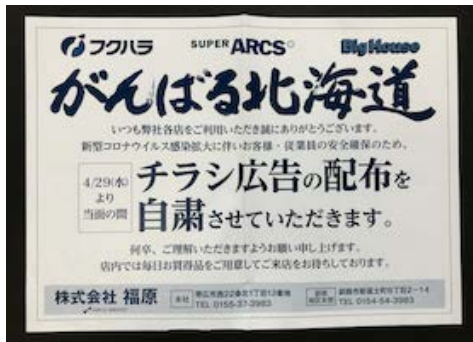
この利点を最大限に活かし、これからの時代に、地域の博物館や図書館が果たす役割や責任をどう考えていくのか?それぞれの専門職である学芸員や司書はどうあるべきなのか?皆様と一緒に考えていきたいと思っていますので、ご意見を頂ければ幸いです。

(浦幌町立博物館 学芸員 持田 誠)

### 「コロナな世相」を伝える

こんな資料を集めています!

### 「チラシ自粛」を告げるチラシ



感染拡大を防止するため、スーパーマーケットのタイムセールなども中止に。やがて、広告の配付そのものが自粛されるようになり、新聞から折り込みチラシが姿を消します。写真はチラシ配付の自粛を告げるチラシで、時代を象徴しています。

(株式会社福原/採集:浦幌町立博物館)

### Pick up BOOK [注目の本]

図書館から

### 『リアルサイズ古生物図鑑』



土屋健(著)・  
群馬県立自然史博物館(監修)  
技術評論社刊  
2019年7月22日 発行  
B5判 上製 207頁

【図書館での配架場所】  
古生物・化石  
分類記号(背ラベル)→ 457.ツ

恐竜のことは学校で習ったけど、大きさやスケールがいまいちピンと来ない…そう感じたことはありませんか?

この本は、さまざまな時代のさまざまな古生物が、現代の風景と合成し、紹介されています。

サーフィンで使うボードに干された古生物、スリッパの隅に並ぶ古生物、テニスのラケットにもたれた古生物…恐竜が好きなお子様はもちろん、大人でも見て楽しめる図鑑です。

(浦幌町立図書館 司書 山崎菜摘)